

1. 研究主題～副主題～

自分の考えを持ち、交流を通して学び合う子どもの育成

～考えを持つ過程を大切に、意欲的に表現し合う活動を通して～

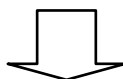
2. 主題設定の理由

本校は昨年度、「自分の考えを持ち、交流を通して高め合う子どもの育成」という主題を掲げ、根拠のある自分の考えを持たせるための手立てと聞き手が話し手の内容をしっかり受け止めて反応できる交流のさせ方の研究を進めてきた。また、サブテーマを「語り合い、聴き合う授業をめざして」とし、低、中、高学年のめざす交流の姿をあきらかにして、研究授業だけでなく、日常の授業でも交流の場を多く持って取り組んできた。その結果、考えを持たせるための手立てとして、体験的な活動を仕組んだり、自力解決のための細かいステップや手順を提示したりすることが大変有効であることがわかった。また、様々な教科で意図的に交流の場面を仕組んだことにより、子どもたちが交流に慣れ、進んで話し合う姿が見られるようになった。だが、一方で、「もっとしっかり考えさせたい」、「自分の考えを自信を持って言わせたい」という思いが残った。そして、授業のねらいを子ども達にきちんと捉えさせるための手立て、一人一人に気づかせ・考えさせる発問の工夫、「考えを持つ」「表現する」ための基本的な要素の洗い出し等、身につけさせるための手法を更に研究していくことで、昨年度の課題が克服できるのではないかと考えた。

そこで今年度は、副主題に掲げたように「考えを持つ過程」に焦点を当て、一人一人がしっかり考え、自信を持って表現する姿をめざして、「自分の考えを持ち、交流を通して学び合う子どもの育成」という主題を設定した。

3. めざす子ども像

根拠を明らかにして自分の考えを持ち、表現できる子ども
自分の考えを話したり友達の意見を聞いたりする活動を通して、より良い考えを持つことができる子ども



	低学年	中学年	高学年
め ざ す 交 流 の 姿	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや考えを喜んで話す。 人の話をしっかり聴く。 友達の発表を聴いて、わかったことや質問してみたいことを話したり、自分と同じか違うかを判断して反応したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えとその根拠となる事柄を、聞き手にわかるように話す。 相手の考えを理解しようとして聴く。 友達の発表を聴いて、わからないことは質問し、自分と同じ意見なら賛成意見を述べ、違う時は反対意見を述べて反応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えとその根拠となる事柄を、聞き手にわかるように話す。 聞き手は意見が違う場合、事実や根拠を知るために、質問したり意見を述べたりする。 友達や先生の話に発見や疑問の目を持ち、気づいたことを表現する。

4. 研究の仮説

仮説 1

学習過程を工夫し、課題を明確にした授業作りをすることで、意欲的に自分の考えを持つ子どもが育つのではないか。

<視点>

子ども達一人一人がねらい（到達した姿）を意識して取り組める課題と学習過程のあり方
課題の持たせ方と自己評価

- ・ 何がわかればよいのか、何ができればよいのかがわかって意識して学習を進める。
- ・ 授業の最後に、ねらいが達成できたか、自分の学習を振り返る。

意欲的に学習に取り組み、確実に自分の考えが持てる学習過程や教材提示の仕方

身近な題材、体験的活動、繰り返し行う学習、調べ学習、手引きをもとにした主体的な学習
問題内容のゲーム化・クイズ形式・選択問題等

考えを持たせるための手立て

ワークシートの工夫、モデルの提示、視覚に訴えたイメージ化、

一人一人に考えを持たせる発問、学習の足跡が見える掲示・板書

考えの根拠となるものを明らかにして（教材文、既習事項、グラフ、地図、実験結果等）

仮説 2

交流のねらいを明確にし、考えを表現し合うことで、自分の考えを深めたり、広げたりする子どもが育つのではないか。

<視点>

表現したくなる学習場面の設定

活動 【 表現しなければならぬ必要性 表現したくなる魅力的な活動 】

思い 【 友達や先生に知らせたい 自信がないので確かめたい 】

考えを表現させるための発問、支援

多様な考えを引き出す発問、深める発問、少人数交流後の全体交流での発問等

ねらいを明確にした交流のあり方

ペア（考えを確認する。同じか違うのか。良い表現に着目させる。）

グループ（いろいろな考えに触れ、自分の考えを広げる）

自由交流（自分の考えを教えたい相手、考えを聞いてみたい相手と交流する）

全体交流（いろいろな考えを出し合い、確かなものをみんなで見つけ出す。自分の考えを広げたり深めたりする。）

5. 研究の進め方

（１）推進委員会、全体会、低学年・高学年部会を組織し、授業分析を行い、子どもの育ちについて探っていく。推進委員会では研究の基本的な事項についての方針を決定し、全体会で深めていく。

（２）授業研究を中核に、実践を通して研究を深める。

- ・ 記録者は、事前・事後研究を含めた授業研究において明らかになったことや課題として残

- されたことなどを「授業研究記録」としてまとめ、配布し、次回の授業研究へつなげる。
- ・ 指導案や授業研究記録、実践記録は、年度末に研究収録としてまとめ、研究の共通理解を図り、次年度に生かしていく。
- (3) 研究の日常化を図る。
- ・ 授業研究の時だけでなく、日常の授業で、研究の仮説を意識し、視点の内容を取り入れた授業を仕組む。
 - ・ 授業研究を通して明らかにされたことを確認し合い、日常の授業に取り入れ、実践していく。
 - ・ 学力充実部との連携を密にし、「考えを持ち、表現できる力」を育てるための学習スキルを育てていく。
 学び方を身につけさせるためのポイントを共通理解し、日常の授業に取り入れる。
 発表の仕方、話の聞き方、音読の仕方、ノートの使い方等
 ペアやグループ(4人程度)の交流を、いろいろな教科、様々な場面で活用し、話し方・聞き方・進め方・まとめ方など、正しい交流の仕方を身につけさせていく。
 自分の思いや考えを表す場面を、生活・学習の場に広げていく。
 (スピーチ、帰りの会、各教科)
 - ・ 子ども同士の関わり合いを大切にした学級経営を行い、考えを自由に話せる雰囲気づくりと友達を大切にしたい言動ができる子どもを育てていくことをめざす。
- (4) 先進校の研究について学ぶ姿勢を大切に、公開研究会へ参加したり、資料をもとに学び合ったりするなど、その実践を学んでいく。

6. 研究組織

